

1か月予報 全般ウェブ解説会報資料

2025年12月25日

予報期間：12月27日～1月26日

特に注意を要する事項

東日本では、1週目は気温が高く、2週目は低くなり、気温の変動が大きいでしょう。西日本と沖縄・奄美では、2週目は気温がかなり低くなる可能性があります。北・東・西日本日本海側中心に、2週目は降雪量がかなり多くなる可能性があります。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年に比べ曇りや雪の日が多いでしょう。
東・西日本日本海側では、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。
北日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
東日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

全般1か月予報(確率)

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低 並 高	少 並 多	少 並 多	少 並 多
北日本	日本海側 太平洋側	30:30:40	20:30:50 20:30:50	40:40:20 40:40:20	20:40:40
東日本	日本海側 太平洋側	30:40:30	20:30:50 40:40:20	40:40:20 20:40:40	20:40:40
西日本	日本海側 太平洋側	50:30:20	30:30:40 40:40:20	40:40:20 30:30:40	20:30:50
沖縄・奄美		60:30:10	40:30:30	40:30:30	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低 並 高	低 並 高	低 並 高
北日本	20:40:40	20:50:30	30:40:30
東日本	20:30:50	50:30:20	30:40:30
西日本	20:50:30	70:20:10	40:30:30
沖縄・奄美	20:50:30	70:20:10	40:40:20

全般1か月予報のポイント

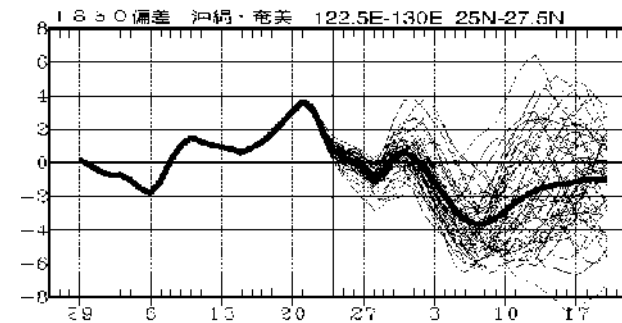
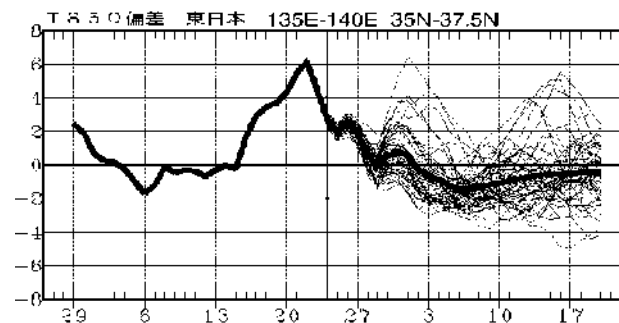
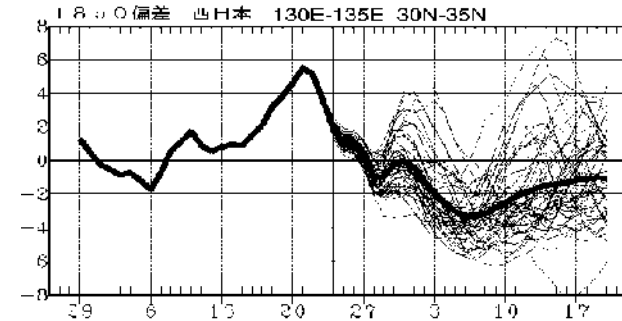
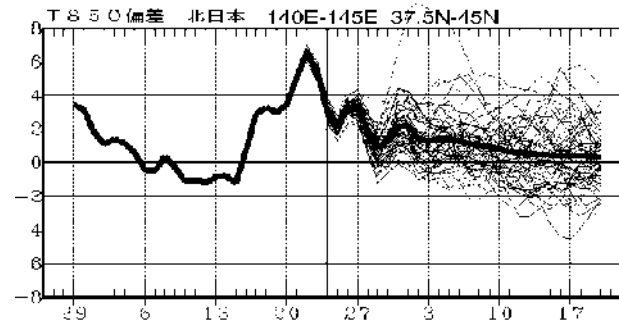
- 冬型の気圧配置が強まる時期があるため、向こう1か月の気温は、西日本と沖縄・奄美では低いでしょう。東日本では、1週目は気温が高く、2週目は低くなり、気温の変動が大きいでしょう。西日本と沖縄・奄美では、2週目は気温がかなり低くなる可能性があります。
- 低気圧の影響を受けやすい時期や冬型の気圧配置が強まる時期があるため、向こう1か月の降雪量は、北・東日本日本海側で平年並か多く、西日本日本海側が多いでしょう。特に、北・東・西日本日本海側中心に、2週目は降雪量がかなり多くなる可能性があります。
- 低気圧の影響を受けやすい時期や冬型の気圧配置が強まる時期があるため、向こう1か月の降水量は、北日本と東日本日本海側が多いでしょう。また、向こう1か月の日照時間は、北日本と東・西日本日本海側で平年並か少ないでしょう。
- 低気圧の影響を受けにくい時期があるため、向こう1か月の降水量は、東・西日本太平洋側で平年並か少なく、向こう1か月の日照時間は、東日本太平洋側で平年並か多いでしょう。

12月23日発表の3か月予報での1月の予報に比べ、西日本では強い寒気が南下する見通しに変わったため、低温の可能性が大きくなりました。また、北日本では低気圧の影響を受けやすい見通しに、東日本日本海側では強い寒気が南下する見通しに変わったため、多雨の可能性が大きくなりました。

各週における天候のポイント(気温)

	1週目(12/27~1/2)	2週目(1/3~1/9)	3~4週目(1/10~1/23)
想定される天候(気温)	北日本で平年並か高く、東日本で高い。西日本と沖縄・奄美は、平年並。	東・西日本、沖縄・奄美では低い。特に西日本と沖縄・奄美ではかなりの低温の可能性。北日本では平年並。	沖縄・奄美で平年並か低い。そのほかはほぼ平年並。
根拠	北・東日本では寒気の影響を受けにくく、暖かい空気が流れ込む日もある。(P.12,P.13参照)	東日本以西では冬型の気圧配置が強まり、大陸からの強い寒気が南下する。(P.12,P.13参照)	沖縄・奄美では寒気の影響を受けやすい状態が続く。予測のばらつきが大きく、不確実性が高い。(P.12,P.13参照)

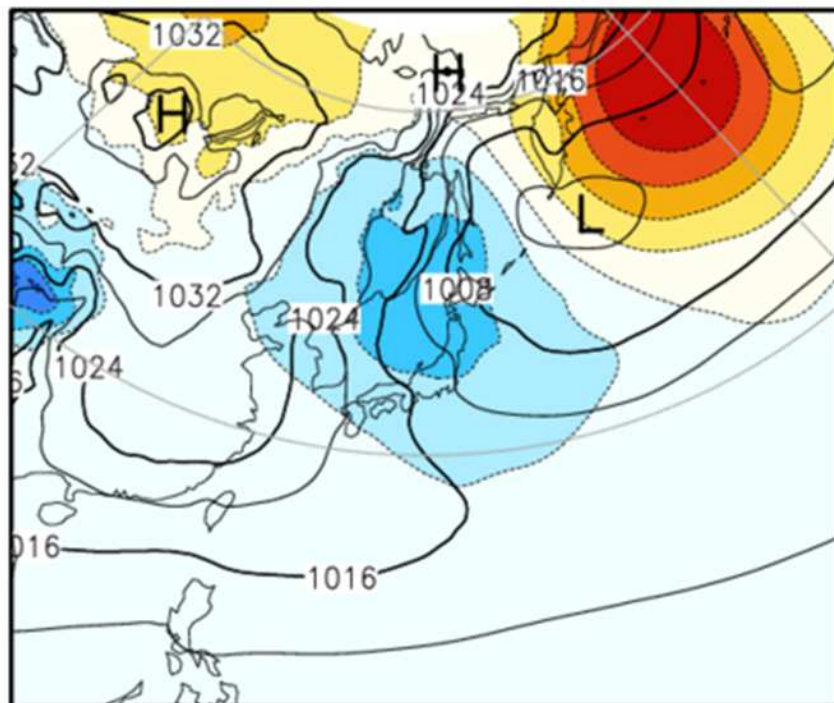
850hPa気温 偏差時系列



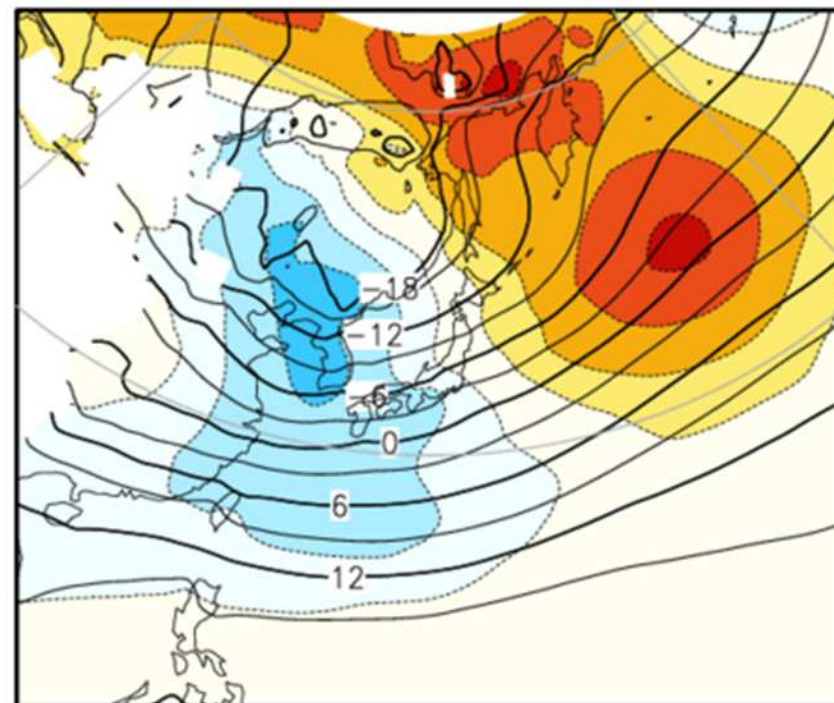
各週における天候のポイント(天気)

	1週目(12/27～1/2)	2週目(1/3～1/9)	3～4週目(1/10～1/23)
想定される 天候 (天気)	<ul style="list-style-type: none"> ・北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。 ・東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。 ・北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 ・沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北日本日本海側では、低気圧の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雪の日が多いでしょう。 ・東・西日本日本海側では、冬型の気圧配置が強まるため、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多いでしょう。 ・北日本太平洋側では、低気圧の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。 ・東日本太平洋側では、低気圧の影響を受けにくいため、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。 ・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 ・沖縄・奄美では、寒気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・北日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪の日が多いでしょう。 ・東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多いでしょう。 ・北・東・西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。 ・沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
根拠	冬型の気圧配置は長続きせず、低気圧が数日の周期で日本付近を通過し、北日本は低気圧の影響を、沖縄・奄美は湿った空気の影響を受けやすく、多雨傾向を見込む。(P.10-P.13参照)	日本付近は、冬型の気圧配置が強まり、東日本以西を中心に大陸からの強い寒気が南下する。北日本は低気圧の影響を受けやすい。(P.10-P.13参照)	予報の不確実性が大きく、全国的に平年と同様の天候を見込む。西日本太平洋側と沖縄・奄美では低気圧の影響を受けにくく、少雨傾向を見込む。(P.10-P.13参照)

海面気圧(1か月)



上空約1500mの気温(1か月)

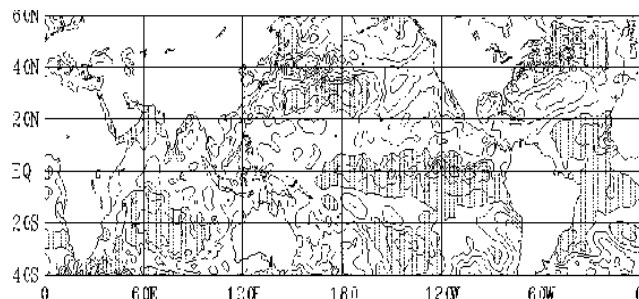


1か月平均の海面気圧(左図)は、北日本中心に気圧が平年より低く、北日本を中心に低気圧の影響を受けやすい時期があるでしょう。東日本以西では気圧の東西の傾きが大きく、冬型の気圧配置が強まる時期があるでしょう。

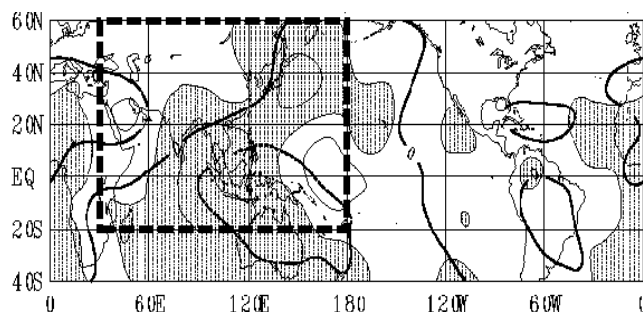
上空約1500mの気温(右図)は、強い寒気が南下する時期があるため、西日本や沖縄・奄美を中心に平年より低いと予測されています。

予報資料の解釈(1か月) 熱帯循環場

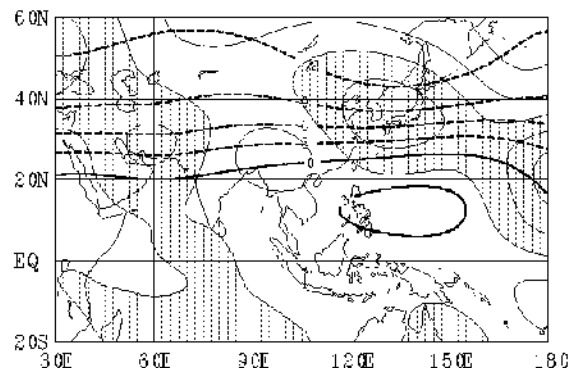
SST偏差



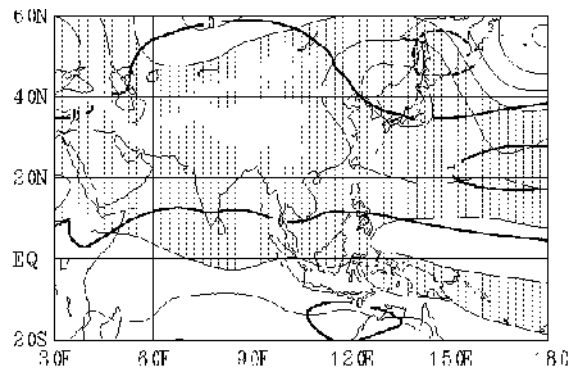
200hPa速度ポテンシャル



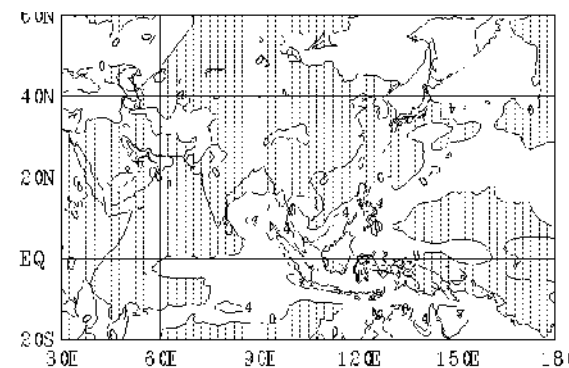
200hPa流線関数



850hPa流線関数



降水量



SST偏差は、太平洋熱帯域はラニーニャ現象的分布。インド洋は、アラビア海を除いて正偏差の所が多い。

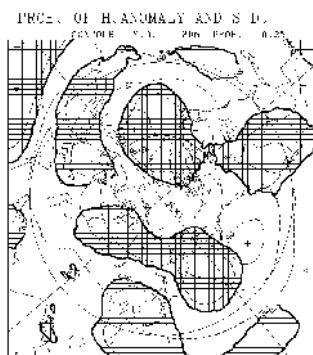
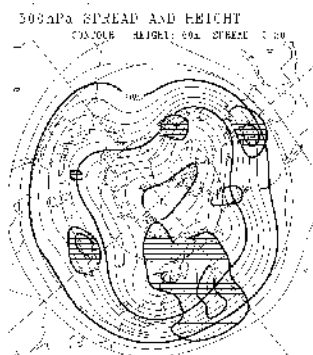
200hPa速度ポテンシャルは、日付変更線付近で上層収束偏差。インド洋東部やインドネシア付近は上層発散偏差。

200hPa流線関数は、亜熱帯ジェット気流沿いの波列が見られ、中東東部と日本付近で低気圧性循環偏差、東南アジア北部で高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数は、インド洋で低気圧性循環偏差、太平洋熱帯域西部で高気圧性循環偏差、日本付近は低気圧性循環偏差で等価順圧構造。

降水量は、インドネシアからインド洋東部で多雨偏差。東・西日本太平洋側や東シナ海で少雨偏差。

予報資料の解釈(1か月) 北半球循環場

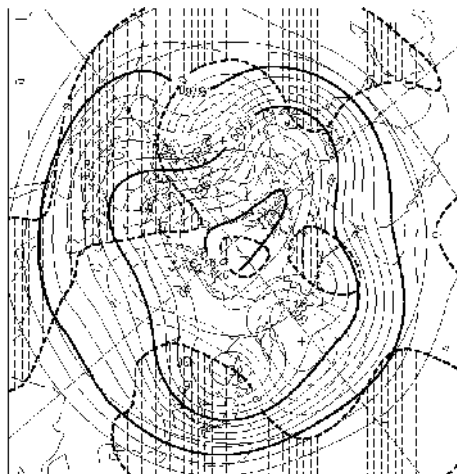


500hPa高度は、中緯度帯は波列パターンが卓越。ヨーロッパから日本付近にかけては正のEUパターン。中央アジアとベーリング海でリッジが明瞭。一方、極渦がサハリン付近に南下し、日本付近はトラフとなり負偏差。日本付近には上空の強い寒気が南下しやすい。日本の北や東でスプレッドが大きく、日本付近への寒気の南下の程度には不確実性が高い。

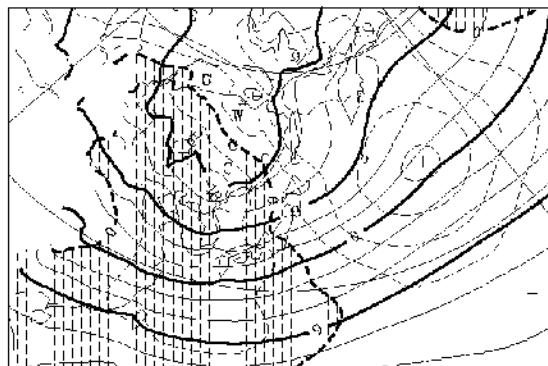
850hPa気温は、日本のはるか東を中心に正偏差で北日本も正偏差に入るが平年との隔たりは小さい。一方、東日本以西は、西日本や沖縄・奄美を中心に負偏差。

海面気圧は、アリューシャン低気圧は中心付近で弱いが、北日本中心に気圧が平年より低く、北日本を中心に低気圧の影響を受けやすい時期がある。東日本以西では気圧の東西の傾きが大きく、冬型の気圧配置が強まる時期がある。

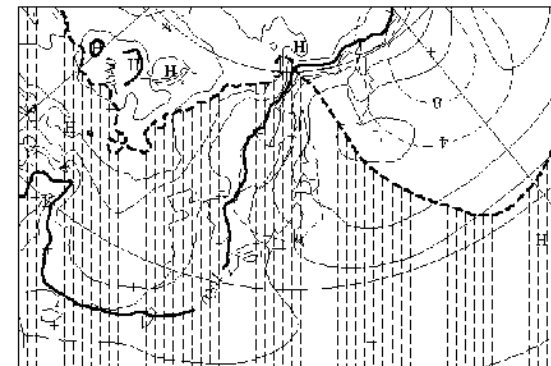
500hPa高度



850hPa気温

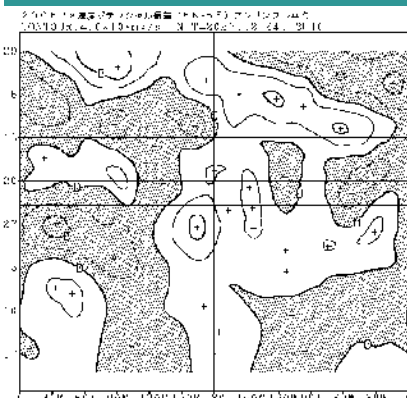


海面気圧



予報資料の解釈(各週) 熱帯の対流活動

200hPa速度ポテンシャル偏差時系列

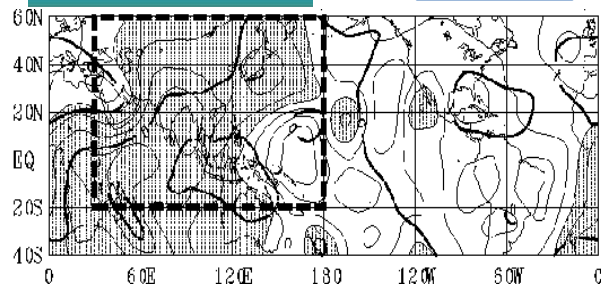


200hPa速度ポテンシャルは、熱帯季節内変動の対流活発位相の東進に伴い、上層発散偏差が1週目から2週目にかけてインド洋から海洋大陸に進む。3～4週目にかけて海洋大陸で上層発散偏差が持続する。

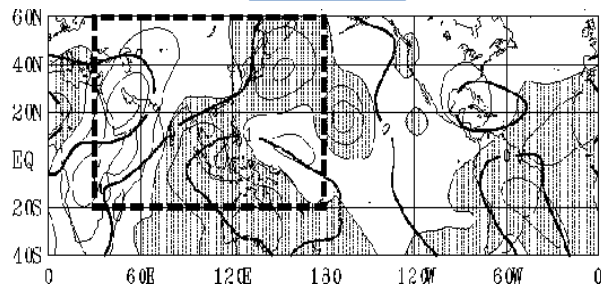
降水量は、1週目はインド洋中部から東部で、2週目はインド洋東部からインドネシア付近で多雨偏差。3～4週目は海洋大陸で多雨偏差。日本付近は、北日本や東日本日本海側で期間を通して多雨偏差。東・西日本太平洋側や沖縄・奄美は2週目以降、少雨偏差。

200hPa速度ポテンシャル

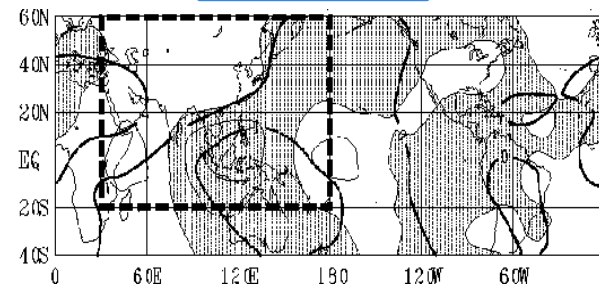
1週目



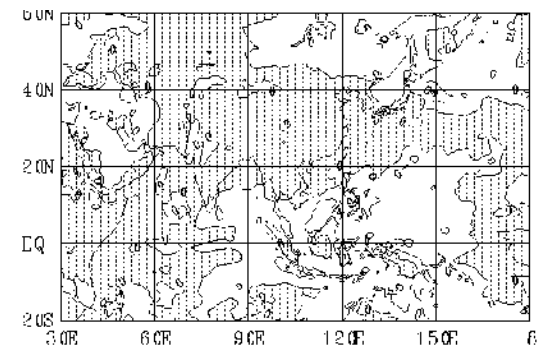
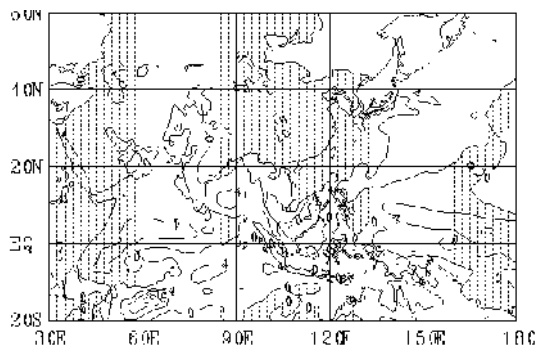
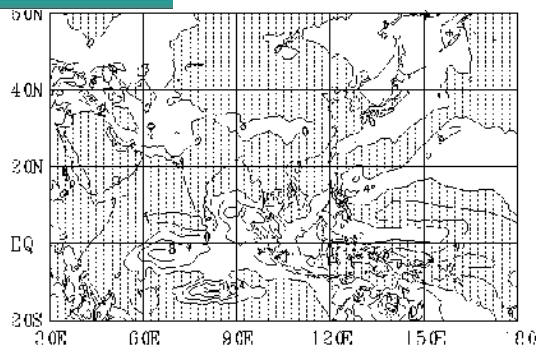
2週目



3～4週目



降水量



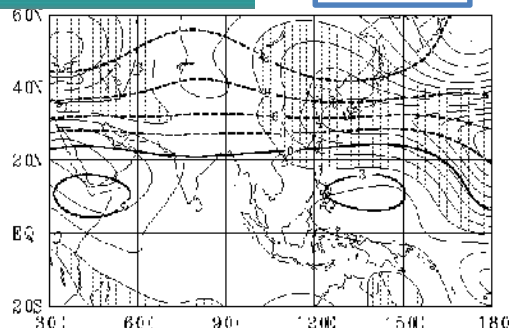
予報資料の解釈(各週) 熱帯循環場

200hPa流線関数は、亜熱帯ジェット気流沿いのロスビー波束伝播や熱帯の対流活動の影響で、1週目は日本の南で低気圧性循環偏差、2週目以降は東南アジア北部で高気圧性循環偏差、日本付近で低気圧性循環偏差。

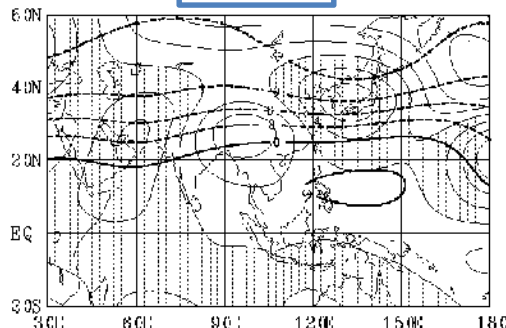
850hPa流線関数は、インド洋で低気圧性循環偏差が持続する。日本付近は1週目は日本の西で低気圧性循環偏差、2週目は日本付近で低気圧性循環偏差が強まり、北日本には湿った空気が流れ込みやすく、東日本以西には大陸からの強い寒気が南下しやすい。3～4週目も日本付近から東海上にかけて低気圧性循環偏差が持続する。

200hPa流線関数

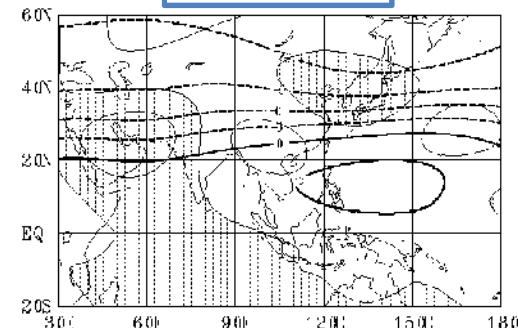
1週目



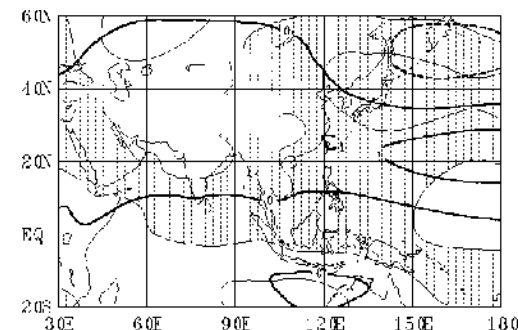
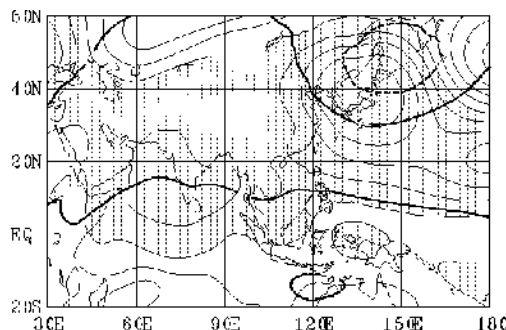
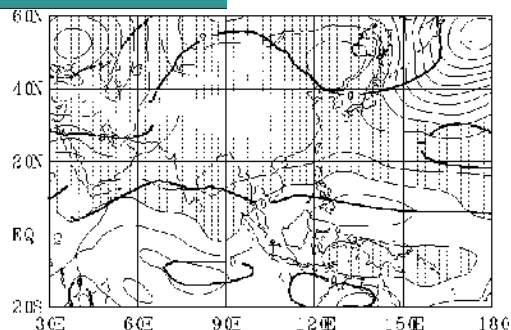
2週目



3～4週目



850hPa流線関数



予報資料の解釈(各週) 北半球循環場

500hPa高度は、1週目はベーリング海でリッジが持続する一方、極渦が沿海州付近に南下し、東シナ海でトラフとなり、北日本中心に西谷。2週目はベーリング海でリッジが持続する一方、寒帯前線および亜熱帯ジェット気流沿いの定常ロスビー波束伝播により、極渦がさらにサハリン付近に南東進し、日本付近でトラフが深まり、上空の強い寒気が日本付近に南下する。3～4週目も偏差は小さくなるものの同様の場が続く。

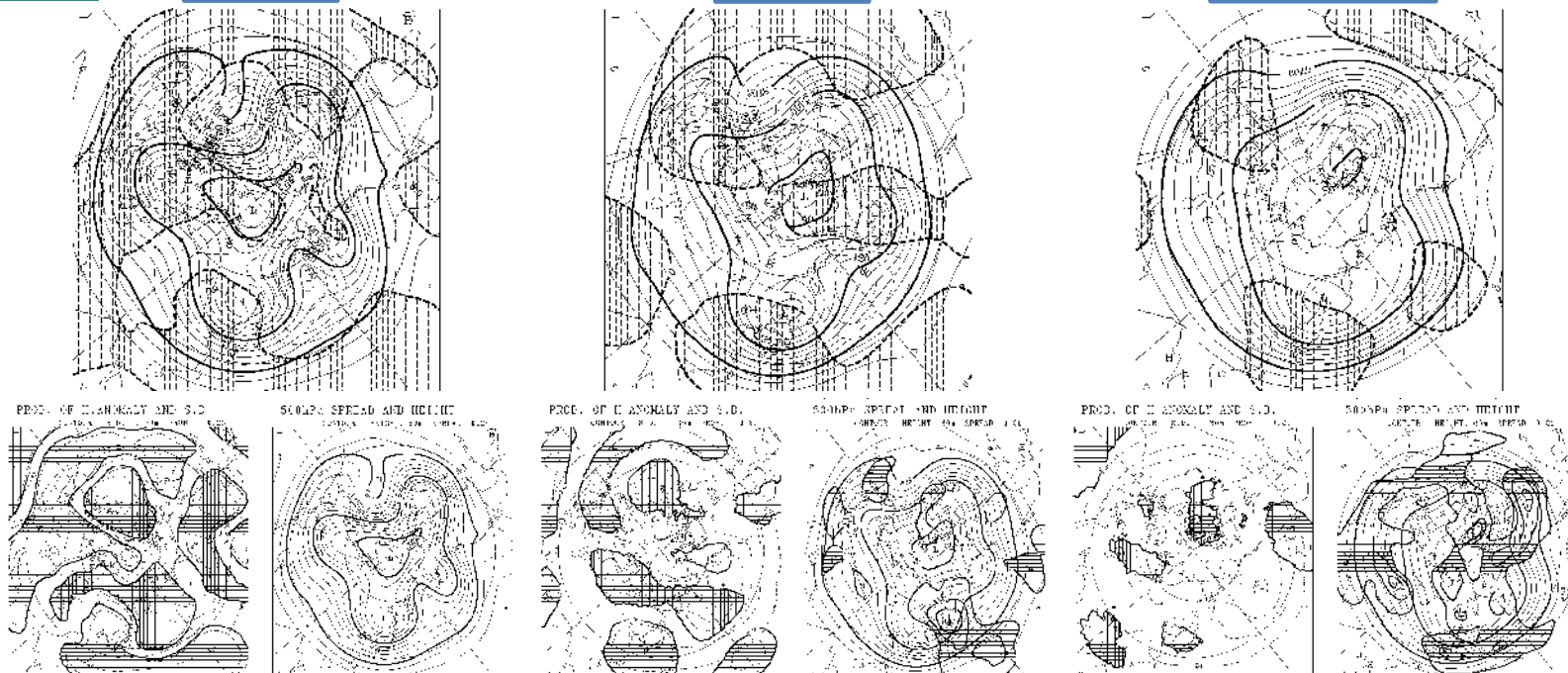
2週目以降は日本の北や東海上でスプレッドが大きく、日本付近への寒気の南下の程度には不確実性が高い。

500hPa高度

1週目

2週目

3～4週目



予報資料の解釈(各週) 日本周辺循環場

850hPa気温は、1週目は、北・東日本で正偏差が続く一方、西日本は負偏差域が広がるが、平年との隔たりは小さい。2週目は北日本で正偏差が続くが、東日本以西は負偏差で、西日本や沖縄・奄美は -3°C 程度の強い負偏差となる。3～4週目も同様の傾向が続き、沖縄・奄美を中心に負偏差となるが、メンバー間のバラつきが大きく、アンサンブル平均の偏差は小さくなる。

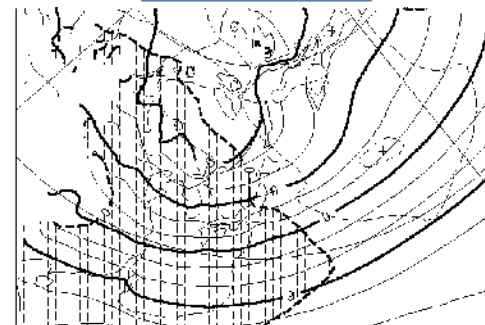
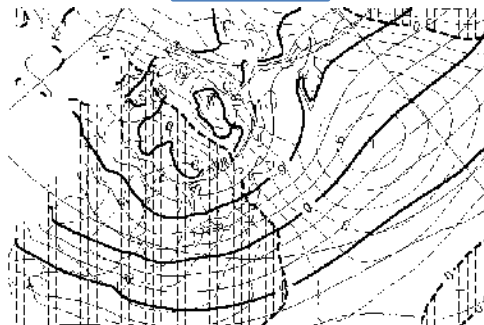
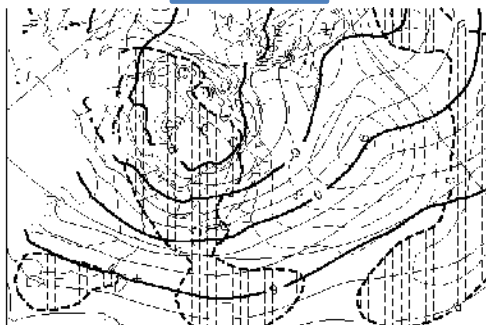
海面気圧は、1週目はアリューシャン低気圧が弱く、シベリア高気圧の日本付近への張り出しも弱い。2週目は北日本中心に気圧が平年より低く、北日本は低気圧の影響を受けやすい。東日本以西中心に冬型の気圧配置が強まり、大陸から強い寒気が南下する。3～4週目も冬型の気圧配置となりやすく、西日本以南を中心に寒気の影響を受ける。

1週目

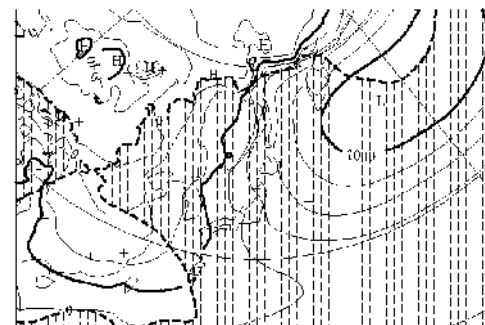
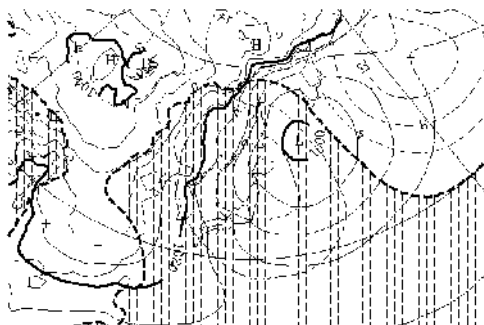
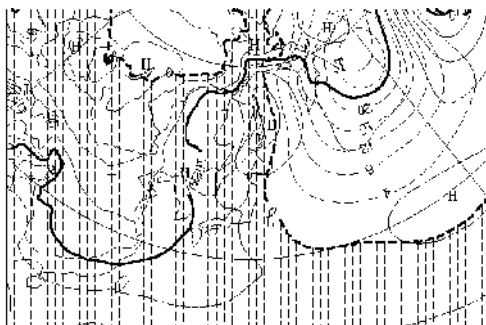
2週目

3～4週目

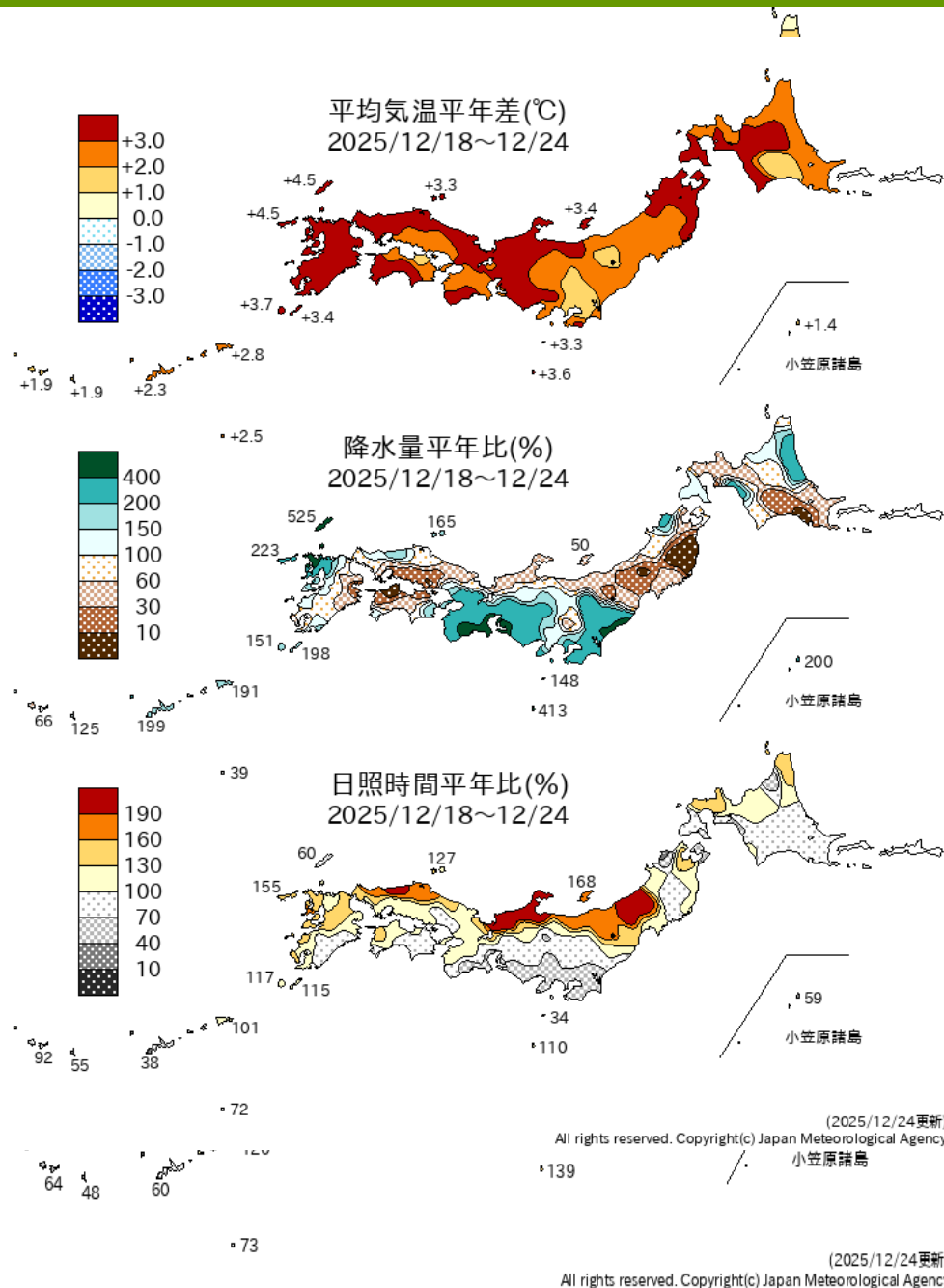
850hPa気温



海面気圧



(参考)最近1週間の天候経過



最近1週間(12月18日～12月24日)は、低気圧と高気圧が日本付近を数日の周期で交互に通過し、冬型の気圧配置となることは少なくなりました。低気圧の前面で暖かい空気が入り、低気圧の通過後の寒気の南下は弱かったため、気温は全国的に平年を大きく上回りました。20日から21日は、西日本日本海側や北日本で12月としての日最高気温の高い記録を更新したところがありました。降水量は低気圧や前線、湿った空気の影響を受けやすかった北日本の一部、東日本太平洋側、西日本日本海側、沖縄・奄美などで平年を上回りました。一方、北日本太平洋側や東日本日本海側では平年を下回りました。日照時間は、寒気の影響をほとんど受けなかったため、北・東・西日本海側で平年を大きく上回った一方、低気圧や湿った空気の影響を受けやすかった東日本太平洋側や沖縄・奄美で平年を大きく下回りました。